

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立鯉江東小学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標（令和4年度から7年度末）

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査において全教科で課題がみられる。特に、全教科で2極化の傾向が認められ、さらなる「わかる授業」づくりが必要である。
- ICT機器の活用を図った授業づくりに取り組んできた。
- 全国学力・学習状況調査の意識調査では各設問に対して「当てはまる」と積極的な回答をしている児童の割合の低い項目が多く、学習や自分についての自信のなさがうかがえられる。
- 学習規律や家庭学習の習慣は身につけてきている。しかし、家庭での生活は、携帯電話の使用やゲームの使用の両項目で、多くの時間を使っている児童が多い。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合的な運動能力に課題がある。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における運動に関する意識は、男女ともに否定的な回答が目立つ。運動することが嫌い・苦手と思っている児童が多いのも課題である。
- いじめや不登校の問題において、解決すべき課題はあるが、保護者や関係機関と連携して取り組んでいる。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

- 令和7年度の小学校経年調査「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。

【1：安全・安心な教育環境の実現】

- 令和7年度の学校生活アンケートにおける「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を90%以上にする。

【2：豊かな心の育成】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校経年調査における大阪市の総合正答率合計に対する総合正答率の割合が7割以下の児童の割合を、いずれの学年も令和4年度より5ポイント減少させる。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- 令和7年度の全国体力・運動習慣調査において、体力合計点が大阪市平均を越すようにする。

【5：体力・運動能力向上のための取組の推進】

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度にむけてプロジェクターから液晶モニターに移行し、対話的・協働的な学習形態を進めることで、各種アンケートによる「授業の内容がよくわかる」「学習が楽しい」といった内容肯定的な回答が80%を超えるようにする。

【6：教育DXの推進】

- ICT機器の活用を図り校務における教職員の負担軽減に努め、本校の「時間外勤務時間」を令和3年度3月分より減少させる。

【7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

【1：安全・安心な教育環境の充実】

- ・年度末の校内調査において不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【1：安全・安心な教育環境の充実】

- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を前年度より増加させる。

【1：安全・安心な教育環境の充実】

学校園の年間目標

- ・年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を90%以上にする。

【2：豊かな心の育成】

- ・年度末の校内調査の「学校ではすすんで挨拶をしていますか」の項目において、「はい」と答えた児童の割合を80%以上にする。

【2：豊かな心の育成】

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の学習は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【4：誰一人取り残さない学力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。

【5：健やかな体の育成】

学校園の年間目標

- ・全国体力・運動能力習慣調査において、長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。

【5：健やかな体の育成】

- ・校内児童アンケートにおいて自分の健康に関心をもつ項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。（清潔検査に加え、歯・口の中の衛生にも関心をもたせるアンケート項目をいれる）

【5：健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）・学校園の年間目標

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上になるようにする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・デジタル教材や協働学習支援ツールを活用した学習を週1回以上実施する。

【6：教育DXの推進】

- ・教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になった教職員の割合を50%以上にする。

【6：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

3 中期目標及び本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

令和7年度の「学校のきまり・規則を守っていますか」について99%と目標の数値を上回っている。また、「学校生活は楽しいですか」の項目において好意的な答えの児童は96%と目標を上回っている。

また、安全安心な教育の推進については、児童・保護者アンケートの結果より「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して児童の割合を90%以上にする目標を大きく上回り99%と好意的な意見がさらに増え、子どもたちの意識がより高くなってきていることを表す結果となった。しかしながらいじめに関する問題解決に100%取り組んではいるが、約2%の否定的な意見の児童もまだいるという事実を受けとめ、さらに継続的に取り組む必要がある。また、年度末の校内調査における不登校児童の在籍比率と改善の割合を前年度よりも減少させるという項目においては、在籍比率については少しずつ増えてきている状況ではある。改善に向けてSSR（スクールサポートルーム）の活用し教職員や家庭との連携を充実させ不登校児童ひとりひとりのサポートを推進していきたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市小学校学力経年調査において、どの教科でも全市平均を超えており、令和7年度の本校の研究テーマを「学びに向かう力を生み出す指導法の工夫～『つかむ』を大切にされた社会科・生活科授業づくりを通して～」と設定し、児童が自ら進んで問題解決に取り組み、考えたい、発言したいと感ずることができるよう研究を進めてきたことが結果として表れている。

毎年、5年生がおこなっている全国体力・運動能力・運動習慣調査の結果から見ると、本校の児童は、体力合計点において大阪市・全国と比べて高い結果となった。（男子では、大阪市2.92ポイント、全国1.44ポイント 女子では、大阪市1.71ポイント、全国0.32ポイント）

体力・運動能力向上の取り組みとしてボール投げ運動やストレッチ運動などを積極的に取り組んでいる。さらなる工夫を行いながら取り組みを充実していくようにしていきたい。

【学びを支える教育環境の充実】

デジタル教材や共同学習支援ツールを活用した学習を週に2.8回以上実施するなど「教育DXの推進」を行うことの項目では、達成できている。授業日において、児童が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にするという項目においては、平均して81%を超え達成することができていることができた。

また、教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になった教職員の割合を50パーセント以上にするという項目においては、全教職員の97.3%という割合になっており、達成できている。しかし、なかにはパソコンを持ち帰って仕事をしている教職員もいる。また、校務分掌の軽重などもあるため課題は残っている。

大阪市立鯉江東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 【1：安全・安心な教育環境の充実】 ・年度末の校内調査において不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 【1：安全・安心な教育環境の充実】 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を前年度より増加させる。 【1：安全・安心な教育環境の充実】 <p>学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を90%以上にする。 【2：豊かな心の育成】 ・年度末の校内調査の「学校ではすすんで挨拶をしていますか」の項目において、「はい」と答えた児童の割合を80%以上にする。 【2：豊かな心の育成】 	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1：安全・安心な教育環境の充実】</p> <p>○ 児童の実態を把握し、いじめなどの早期発見に努め、その解消に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○月1回の生活指導部会において、いじめなどの事案について話し合い、本校のいじめ防止基本方針にのっとり、その解決に向けた学校環境づくりに取り組む。</p> <p>○校内アンケートにおける「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な選択肢の「はい」と回答する児童の割合を90%以上にする。（選択肢は「はい」「いいえ」の2択とする。）また、否定的な選択肢の「いいえ」と回答した児童については全員に対してなぜそのように回答したのか確認の上必要に応じて指導を行う。</p>	B
<p>取組内容②【2：安全・安心な教育環境の充実】</p> <p>○「学校のきまり・規則」を常に児童が意識し、実践するように日々指導を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○校内アンケートを実施し、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目につい</p>	B

<p>て「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容③【3：豊かな心の育成】 ○自尊心の向上に取り組むと共に、互いに思いやる心を育て、自分のことを肯定的にとらえることができる児童の増加に努める。</p>	B
<p>指標 ○児童に対する校内アンケートの、「自分には好きなところがありますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【4：安全・安心な教育環境の充実】 ○不登校児童対策において、保護者や関係機関と連携した取り組みを進め、不登校児童の割合を、前年度より減少させる。</p>	B
<p>指標 ○年2回の児童理解研修会をもち、児童の状況を適切に把握し、保護者や関係機関と連携して状況に応じた多様な取組みを行う。 ○児童の状況把握をするための不登校児童対策委員会を月1回職員会議の場に設ける。</p>	
<p>取組内容⑤【5：豊かな心の育成】 ○異学年によるグループ活動や行事を通して、お互いの気持ちの交流を図り、協力することの大切さを学ばせる。</p>	B
<p>指標 ○児童に対する校内アンケートの「たてわり班活動やつどい組等を通して、友だちや違う学年の人とも仲良くできていますか」の項目について、最も肯定的な回答をした児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥【6：豊かな心の育成】 ○挨拶は人とのつながりがうまれることを児童に指導することを通して進んで挨拶ができる児童を育成する。</p>	B
<p>指標 ○校内アンケートの「『ありがとう』という言葉で家族や友だちに感謝の気持ちを伝えることができましたか。」の項目を「はい」と答えた児童の割合を85%以上にする。 ○校内アンケートの「『学校の先生やクラスメイト』『地域の見守り隊』『学校へのお客様』に対して進んで挨拶をしていますか。」において、肯定的な回答をした児童の割合を90%以上にする。</p>	

<p>年度目標の達成状況の結果と分析</p>
<p>① ○いじめ防止基本方針にのっとり、月に1回の生活指導部会（それ以外の場面でも生活指導部長を中心に対応している）において各学年からの情報を集約し、児童間のトラブルについて生活指導部で協議することができていた。また、職員会議や職員連絡会等において全教職員への周知共有</p>

を行うことで、いじめやトラブルの早期対応を図ることができた。

○各学級、学年においては、いじめアンケートや「心の天気」を活用し、児童の実態を的確に把握することができた。

○児童アンケートでは、98%の児童が肯定的な回答をしている。また、否定的な回答をした児童に対する聞き取りや指導も適切に行うこともできた。

② ○アンケート結果においては、肯定的な回答をする児童が98%と指標を上回る結果となった。学級指導や、月一回の生活指導部会での共有により、きまりや規則は守らないといけないものであるという認識を持つ児童は増えていると感じる。しかし、守らないといけないということはわかっているものの、実際には守れていない場面を見かけることも多い。特に、廊下・階段の歩行については課題が多いように感じる。

③ ○児童の校内アンケートでは、85%の児童が肯定的に回答している。道徳の学習、係活動や班活動、運動会などの行事など様々な場面で、良いところを伝え合ったり、達成感を感じたりすることができる活動を実践している。教職員からも、学校生活の様々な場面で、がんばっていることを認める声かけをしている。

④ ○毎月の生活指導部会や不登校児童対策委員会、年2回の児童理解研修会において、児童の実態や状況を把握し、情報共有や共通理解を図ることができた。また、担任を中心に保護者や児童、関係諸機関とも連携をとったり、「学びの場」を効果的に活用したりして、可能な限りの対応をすることができた。しかし、不登校や不登校傾向の児童の減少には至っていない。

⑤ ○校内児童アンケートにおける「たてわり班活動やつどい組等を通して、友だちや違う学年の人とも仲良くできていますか」の項目について、最も肯定的な回答をした児童の割合は63%であった。○全校オリエンテーリングはなくなったが、児童集会等で集まることはできている。しかし、後半には感染症拡大防止のために教室での活動が多く、たてわり班で集まる機会が少なかった。

⑥ ○「ありがとう」という言葉で家族や友だちに感謝の気持ちを伝えることができましたか。」の項目を「はい」と答えた児童の割合は97%、「学校の先生やクラスメイト」「地域の見守り隊」「学校へのお客様」に対して進んで挨拶をしていますか。」において、肯定的な回答をした児童の割合は95%で、どちらも指標を上回る結果となった。

○教員や見守り隊の方へ進んであいさつできている児童は多いが外部の方へのあいさつはあまりできていない。

次年度への改善点

① ○いじめやトラブルへの対応は、今年度と同様に教職員間の連携や情報共有を確実にを行い、迅速に対応できる組織作りを行っていく。

○児童アンケートの肯定的な回答の割合は高いが、否定的な児童が13名いるという実態やいじめアンケートでは「悪口」や「嫌がらせ行為」を受けたと答えている児童もいるため、日々の児童の言動や小さなトラブルに対して細心の注意を払って指導に当たる必要がある。

② ○自分のクラスや関係している児童だけでなく、全教職員が一丸となって同じ基準で指導を続けていくことができるようにする。

○休み時間の過ごし方については、看護当番の見守りが十分ではなかったため、次年度はそこも強化していくようにする。

③ ○それぞれの学級で自己肯定感を高めるための取り組みを工夫して行っていることを、学校全体で共有することができるようにする。

- ④ ○引き続き、児童の状況を把握し、情報共有に努め、全教職員で関わるようにしていく。また、保護者や関係諸機関とも連携し、丁寧に対応しながら、不登校児童の改善を図っていく。
- ⑤ ○今後もスクールフェスタや地域清掃、児童集会等で交流する機会を継続していく。
1学期には高学年から低学年に掃除を教えたり、各学年での交流を図っていくことも検討する。
- ⑥ ○教員も挨拶を徹底し、子どもたちの意識を変えていく。(特に外部の方への挨拶)
○「いただきます。」「ごちそうさま。」などの挨拶の意味を子どもたちが考えられるように、挨拶の指導を行っていく。

大阪市立鯉江東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 【4：誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 【4：誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 【4：誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。 【5：健やかな体の育成】 <p>学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力習慣調査において、長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。 【5：健やかな体の育成】 ・校内児童アンケートにおいて自分の健康に関心をもつ項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。（清潔検査に加え、歯・口の中の衛生にも関心をもたせるアンケート項目をいれる） 【5：健やかな体の育成】 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【7：誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○社会科を中心に教員の指導力向上に取り組む。</p>	

<p>○算数科における計算力を高める指導に取り組む。</p>	
<p>指標</p> <p>○各教員は年間1回以上の研究授業を行い、指導力の向上を図る。</p> <p>○校内児童アンケートにおける「学習でわからないことにも自分からすすんで取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>○校内児童アンケートにおける「計算が速くできるようになった。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【8：誰一人取り残さない学力の向上・6：教育DXの推進】</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」を目指した学習に努める。</p>	
<p>指標</p> <p>○学習者用端末や大型モニターなどのICT機器を活用した授業を週平均3回以上実施する。</p> <p>○学習の中に、「一人学び」や「ペア、小集団で話し合う」場を設定し、主体的で対話的な学びを週に3回以上実施する。</p> <p>○校内アンケートにおける「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、3年生以上を対象に肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【9：健やかな体の育成】</p> <p>○子どもの体力・運動能力向上のために取り組みの充実を図る。</p> <p>○年間を通して柔軟性や投げる力の向上にむけた取り組みを行う。</p> <p>○子どもの体幹を鍛えるための取り組みの充実を図る。</p>	
<p>指標</p> <p>○課題のある「柔軟性」を高めるために、「長座体前屈」の記録を取り、5月の結果よりも2ポイント上昇させるために、継続的な取り組みを行う。</p> <p>○課題のある「投げる力」を高めるために、「ソフトボール投げ」の記録を取り、5月の結果よりも2ポイント上昇させるために継続的な取り組みを行う。</p> <p>○校内アンケートの「運動することは好きですか」の項目において、最も肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【10：健やかな体の育成】</p> <p>○手洗いや口腔内衛生を保とうとする習慣が身につくように、自分の健康に関心をもたせる指導を行う。</p> <p>○食事の大切さに関心を持てるよう、食に関する指導を計画的に行う。</p>	
<p>指標</p> <p>○保健委員による週1回の清潔調べで、「ハンカチ、ティッシュを持って来ている」と答える児童の割合をどの学級も80%以上にする</p> <p>○歯科の要受診者の治療受診率を80%以上にする。</p> <p>○校内児童アンケートの「朝ごはんを食べていますか」の項目において、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況の結果と分析

- ① ○教員は年間1回以上の研究授業を行い、指導力の向上を図った。
校内児童アンケート「学習でわからないことにも自分からすすんで取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合が92%であった。校内児童アンケートにおける「計算が速くできるようになった。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を94%であった。
- ② ○児童が主体的にICT機器を活用する学習場面を設定する。週に3回以上はICT機器を活用した授業をしている。
○スカイメニューやデジタルドリル等の機能を使った学びの場の設定し、ICTを活用した学びや共有ができています。「一人学び」「ペア、小集団で話し合う」などの場を設定し、主体的で対話的な学びを推進する。
○「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、3年生以上を対象に肯定的に回答する児童の割合を80%以上にするという項目においてアンケート結果が71%であり、指標を下回っている。特に学年が上がるにつれて、肯定的回答の割合が低い。
- ③ ○二学期末に第二回記録会（長座・ソフト）を行った。長座：5月の記録から1ポイントでも伸びた児童は全体の50% ソフト：5月の記録から1ポイントでも伸びた児童は全体の48%であった。指標を変えてから初めての結果なので、これらの値を参考に来年度へ繋げていく。
○校内アンケートの「運動することは好きですか」の項目において、最も肯定的な回答をする児童の割合が71%であり目標の70%を超えることができた。ここ数年は達成することができていなかったのも、大きな前進といえる。
○日頃の宿題に、ストレッチを取り入れている。ただ、それが長座への記録に繋がっているかは不透明であるとの声がたくさんあった。体育部では、体育の時間に1種目でもいいのでストレッチを取り入れてほしいことは周知している。
- ④ ○保健委員及び養護教諭を中心とした数々の保健の取り組み（1年間パーフェクト賞や忘れ物ゼロ）により、健康に対する意識が高まった。毎週の清潔調べや学級での取り組みがハンカチ・ティッシュを持ってこることへの意識づけになり、月別・学級別・全校のどれにおいても、どのクラスも80%以上の児童が忘れず持参できた。
○児童には2・3学期の歯科指導やCO・GOの検診を通して、治療の必要性に気づかせるとともに保護者にも受診を勧めてきた。受診報告書の未提出者のうち、紛失・未持参の児童もおり、3学期の最終的な受診率は79.4%であった。
○栄養指導により、自分の食生活の栄養バランスについて考える機会が設けられた。児童アンケート「朝ごはんを食べていますか」について肯定的な回答をする児童は98%であった。

次年度への改善点

- ① ○1人1授業について、2学期の終わりから3学期に集中して授業しているため、参観が難しい状況であった。指導力向上のため、教員が予定を立てて参観できるように、1学期から3学期まで分けて実施したほうがよかった。学年で1・2・3学期のいつにするか4月の初めに決定し、日程についても早めに決定したほうがよかった。
- ② ○ICT機器の活用は毎年のように効果的な活用法が見出されているため、研修等で知識を得て、教職員間での活用法の共有を図る必要がある。
ペアや小集団の話し合いは、日々の学習で取り組んでいる。話し合いの場においてもICTの活用

など、従来型ではなく、様々な形を模索しながら主体的な学びの場を設定していく必要がある。外国語の知識は理解できているものの、「話す」「書く」といったことを苦手を感じる児童が一定数いる。そのため、外国語を主体的・意欲的に学ぶことができるように、どのような手立てがあるか、学校全体で考える必要がある。

- ③ ○柔軟性に関しては、ストレッチの継続や内容の充実をはかっていきたい。体育でも必ずストレッチを取り入れていく。
- 投げる力は、児童数の増加・備品の数など十分に児童に還元することが難しいと感じたので来年どうするかを考えていく。
- アンケート結果を維持できるような、企画や取り組みを考える必要がある。
- ④ ○清潔調べでは、学級での指導のほかに結果の掲示や賞などが意識の向上にもなっているので、保健委員会の活動として継続していく。
- 歯科の治療については、家庭の協力が必要な内容のため、徹底していくのは難しい面もある。児童には、継続して治療の必要性を伝えていく。
- 朝ごはんについての児童アンケートはよい結果だったので、次年度は睡眠についての内容も追加を検討していく。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）・学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上になるようにする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ・デジタル教材や協働学習支援ツールを活用した学習を週1回以上実施する。 <p style="text-align: right;">【6：教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になった教職員の割合を50%以上にする。 <p style="text-align: right;">【7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6：教育DXの推進・9：家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</p> <p>○低学年は、新たな端末に慣れ親しみ、3年生以上は、デジタル教材や協働学習支援ツールを活用する。</p>	B
<p>指標</p> <p>○校内アンケートを実施し、低学年は「タブレット端末での学習に取り組みましたか。」の肯定的回答を80%以上にする。3年生以上は「協働学習支援ツールを利用して自分の考えを深めることができましたか。」の肯定的回答を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○教職員一人一人の時間外勤務時間が1か月45時間以下になるようにする。</p>	B
<p>指標</p> <p>○教職員個人が持ち帰りの仕事を含めて、45時間以下の勤務外労働時間になるようにする。また、その教職員の割合を全体の50%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況の結果と分析
<p>① ○校内アンケートの肯定的な回答は80%を超えており、指標を達成できている。</p> <p>また、心の天気の入力も継続して取り組むことができている、1日1回は児童が端末を利用する機会が設けられている。端末がクロームブックに入れ替わったということもあり、Googleクラスルームを活用した学習など学習活動の幅が広がりつつある。さらに低学年を中心に、ICT支援員に端末の利用をサポートしてもらい、操作能力も向上してきている</p> <p>② ○ゆとりの日を設定したり、セットの時間を提示したりすることで、時間を意識でき仕事の優先順</p>

位を考えて行ってきた。その結果、数値的に指標をクリアできている。また、ライフワークバランスを考えて働くことができてきている教職員も増えてきた。しかし、なかにはパソコンを持ち帰って仕事をしている教職員もいる。また、校務分掌の軽重などで、勤務中で終えることが不可能な時間を負担している教員もいる。

次年度への改善点

- ① ○毎日、心の天気の入力を継続し、児童が端末を利用する能力に大きな差が生まれないよう、端末利用について各学年で達成項目を設定する。
- ② ○時間を有効活用する意識は大切であるため、ゆとりの日の設定や会議の時間短縮や精査などは、継続しておこなっていく。来年度に向けて教職員へアンケート(『持ち帰りの内容』や『校務分掌と仕事量の関係』など)をとり、教職員の負担の実態を把握し改善点を見つけるようにする。